令和四年度　学校文集【令和四年四月】

ひらやま　一号

《新任式での歓迎のことば》

ようこそ、財光寺小学校へおこしくださいました。先生方が来るのを全校児童一同、楽しみに待っていました。

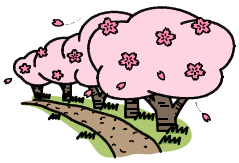
財光寺小学校は、いい所がたくさんあります。あいさつがいい所、朝教室に入った時に元気な声でむかえてくれます。

次に、やさしい声かけ、接する心です。だれかがけがをした時に声をかけたり、勉強を教える時などにやさしく接してくれます。

時には、元気がよすぎて注意されたりもしますが、素直に聞いています。

「天空の城　ラピュタ」の「ラピュタ」の像や「となりのトトロ」の「真っ黒黒すけ」が校内のどこかに絵がかかれているので、ぜひ、さがしてみてください。

これから、どうぞよろしくお願いします。



児童代表
六年三組
松浦　太陽

《始業式での抱負発表》

五年生で学んだことを六年生で生かす

六年二組　小川　美結

今日から、六年生がスタートしました。

私は、五年生の中で、たくさんの学びがありました。

例えば、十一月にした、むかばき宿泊学習では登山をする楽しさや仲間の大切さに気付く第一歩となりました。これも一つの学びでした。

このような学びがある中、私が一番学んだことは、十月に行われた体育発表会のダンスです。このダンスは何ヶ月も前から一生けん命練習しました。学校ではもちろん、いえでも鏡の前に立ち、何度も何度も練習しました。

すごくきつかったけど、私の心の中は、「絶対に最高のダンスをおどりたい。」その一心でした。そして、いよいよ、本番をむかえました。すごくきんちょうしたけど、練習したことを本番で出しきるだけだと思い、少しきんちょうがほぐれました。私は、２曲目までせいいっぱいおどり、ほっとして、先生を見ると、目に涙をうかべていました。その時私は、努力は決してむだにならない、努力は必ずむくわれると思いました。

なので、六年生ではこの言葉をむねに、何事に挑戦し、新たな学びを深めていきたいです。五年生での学びを六年生で生かし、最高の小学校生活を送りたいです。

新聞等掲載の作品

コロナのせいで

六年二組　芳賀　美春

私たちは新型コロナウイルスというきけんな病気ととなり合わせで生きています。だれがかかってもおかしくない大変な病気です。

そんなコロナがいなければ友達と大きな声で一緒に話ができるし、ソーシャルディスタンスもしなくていい、それにマスクもしなくてよくなる、だがしかし今の様子はその真逆である。

そんなコロナから命を守ることが出来るそれは、手あらい、うがい、マスク、消毒、そして、自分達の強い意思である。その意思とは、だれがかかってもおかしくない。友達がかかってもいじめをしない。そして自分がかかってもじぶんをせめないことだ。

これらのことを私はきちんと守って、友達も大切にしていきたいです。

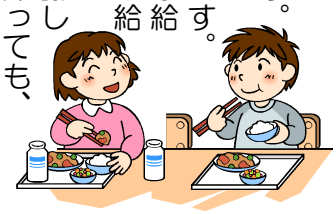
【夕刊デイリー『光の子』令和四年四月八日】

人生を支える幸せ

六年三組　黒木　優太

僕には、幸せなことがたくさんあります。まず、いつものようにねて、起きてをくり返すことです。僕は、ねることも生活することも大好きです。ねる時は、やわらかなふとんにねてきもちいいし、生活しているときは、学校で友だちと楽しくしゃべったりできるからです。

つぎにご飯です。僕は、食べることが何より大好きです。学校でいろいろな給食を出してくれる給食センターの方々には、いつも感謝しています。家に帰っても、僕の母や祖母がおいしいご飯を出してくれます。



最後に好きなことが、いつでもできることです。僕はいつも、ピアノの練習や勉強、好きなアニメのカードやグッズを集めたり、いろいろなことをしたりしています。時には、ゲームをすることもあります。そんなことをさせてくれる、母や父にも感謝しないといけないなぁと思っています。いままでつらいこともたくさんあったけれど、いまのようなたくさんの幸せなことが僕の人生を支えてくれています。

【宮崎日日新聞『若い目』令和四年四月十五日】